

ひかり

2026年4月号



Ascension

日本聖公会 三光教会

第742号

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

AX 03(3781)2544

<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

「よくよく言っておく。私は羊の門である。…私を通して入る者は救われ、また出入りして牧草を見つける。盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。私に来たのは、羊が命を得るため、しかも豊かに得るためである。」(ヨハネによる福音書10:7~10)

三度も私を愛しているか?
訊くイエスさま

司祭シモン・ペテロ上田憲明

イースターおめでとうございます。イースターのお祝いには7週間に渡って続きます。その7週間の前半では、イエスの復活についての福音書が読まれることとなります。

ヨハネによる福音書の21章では、弟子のひとりであるペテロに復活したイエスさまは三度、「私を愛しているか」と問いかけています。これは、イエスさまが十字架にかけられる前のストーリーと繋がっています。

イエスさまは最後の晩餐の後、「弟子たちはイエスさまを見捨てて逃げ去るだろう」と予告されました。弟子たちは口々に、「たとえ死ぬような目にあってもイエスさまにどこまでもついて行きます」というように答えます。さらにペテロは、「みんながつまづいても、わたしはつまづきません」とイエスさまに宣言するのですが、イエスさまは、「あなたは

にわとりが二度鳴く前に、三度私を知らない、と言うでしょう」と答えられます。(ペテロが、よく鳴いている鶏と結びつけて語られるのはそのためです。)

実際に、イエスさまが十字架につけられることになる裁判を傍聴しようとした時に、周囲にいる人に、「あなたも、あの人の仲間なのではないか?」とペテロは問いかけられ、咄嗟に「違います。あんな人のことは知りません」と答えてしまいます。さらに問いかけられ、三度目には呪いの言葉さえ口にしながら、「あんな人のことは知らない」と答えます。そこで、にわとりが鳴いた声が聞こえて、ペテロはイエスさまのおっしゃられたことを思い出して、泣き出してしまいます。(イエスさまは、その後、十字架につけられ殺されてしまってから、復活されます。)

そして復活したイエスさまがペテロに尋ねる表題の話になります。一度目、二度目は、「アガペー」(無償の愛、不変の愛)で愛しているかと尋ねられ、ペテロは「フィレオー」(友愛)の意味の愛で、「わたしがあなたを愛して

いるのは、あなたがご存じです」と答えます。それらの答えを聞きながら、イエスさまは、三度目には、「フィレオー」の愛で「わたしを愛するか」と尋ねておられます。それは、三度イエスさまを知らないと言ってしまう、三度目には呪いの言葉さえ出して「知らない」と言ったペテロの言動を、白日の下に晒しながらも、それを受け止め、赦そうとしておられるイエスさまの姿が描かれているように思います。ペテロが心から赦されたと感じるには、このように自分の弱さを思い出し、突き付けられると同時に、自分を受け入れられているという体験が必要だったのではないのでしょうか。また、イエスさまはそういう赦しの言葉と共に、「小羊を飼いなさい」とか、「羊を養いなさい」とこれからのペテロの使命についても語られます。ここを読む時、大胆に問題に切り込みながらも、癒しをもたらされ、再び立ち上がらせるような丁寧なカウンセリングの場面を思い起させられるような気がいたします。再び立ち上がったペテロが、弱さを抱えた人たちを勇気づけ、立ち上がらせていく人にな

つて活躍する続きの話は使徒言行録などに載っているので、復活節はその辺りも読む事になっていきます。

4月～5月の予定

- ◆4月
 - 19日(日) 復活節第3主日
 - 21日(火) 主教会博士アンセルム
 - 23日(木) 殉教者ジョージ
 - 25日(土) 福音記者聖マルコ日
 - 26日(日) 復活節第4主日
 - 29日(水) おとめシエナのカタリナ
- ◆5月
 - 1日(金) 使徒聖ピリポ・使徒聖ヤコブ日
 - 2日(土) 主教会博士アナタシオ
 - 3日(日) 復活節第5主日
 - 4日(月) モニカ
 - 5日(火) 逝去者記念聖餐式
 - 9日(土) 主教会博士ナジアンソスのグレゴリー
 - 10日(日) 復活節第6主日
 - 11日(月) 昇天前祈祷日
 - 12日(火) 昇天前祈祷日
 - 13日(水) 昇天前祈祷日
 - 14日(木) 昇天日
 - 17日(日) 復活節第7主日(昇天後主日)
 - 24日(日) 聖霊降臨日
 - 25日(月) 司祭教会博士ビード
 - 26日(火) 主教カントベリーのオーガスチン
 - 27日(水) 夏期聖職按手節
 - 29日(金) 夏期聖職按手節
 - 30日(土) 夏期聖職按手節
 - 31日(日) 三位一体主日・聖霊降臨後

第1主日

教会暦に沿ったコンサート

第1回 大斎節

青野 悦人

3月28日(土)、聖週を迎える直前の土曜午後、ペルゴレージ『スターバトマーテル』の調べが春の陽光の射しこむ聖堂に流れました。天に抜けてゆくような響きが140人強の聴衆を魅了した一時間でした。黒川夫妻が温めてこられた、教会だからこそその音楽会が実現しました。



私たちの日々の祈りや歌声が溶け込んでいる聖堂で、人への共感と神への讃美を結晶化した歌曲が、思いを込めて奏でられ思いを込めて聴かれることから生まれるもの。

趣旨に賛同し心良くご出演くださった、ソプラノ澤江衣里さん、メゾソプラノ布施奈緒子さん、ヴァイオリン黒田玲さん、ヴァイオリン今村亜里子さん、そしてオルガン黒川文子さん、チェロ黒川正三さん。ほんとうにありがとうございます。

会の始めに上田憲明司祭が聖書を読まれ「剣があなたの魂さえも刺し貫く」(ルカ2)、「見なさい。あなたの母です」(ヨハネ19)、「イエス様の受難と復活にどのように向かい合おうかと問われました。

「復活ってどんなふうになる? 赤ちゃんとになったの? 生き返ったの?」と閉会後に司祭に尋ねた5歳の子どもがあつたそうです。

聴衆の声をアンケートから「普段コンサートでできない音楽が聴けた」「教会で聴くスタバトマーテルは特別」「大斎節にふさわしい」「素敵な空間に心

洗われた」「初めて知った『悲しみの聖母』に感動」「お子様をお持ちのお二人の歌が心に響いた」「世界の戦禍を思い、かの地の人々にも、このような時間が戻りますように」……。

会の終わりに全員で聖歌150番。唱う声が自然に高まり、詞が改めて胸に迫りました。「主の憐れみは時を隔てし我に及ぶ、されども私の罪の釘はみ手とみ足の痛みを増す」。



今年のイースター

4月5日(日)のイースター礼拝は、シニータル司祭の司式説教で180名ほどの出席がありました。天気予報は雨が降るかもとのことでしたが、降ることもなく過ぎました。

大きな礼拝では、久しぶりの方にお会いしたり、新しい出会いがあったりと嬉しい時を過ごしました。

陪餐後のアンセムでは香蘭父母「紫苑の会」の聖歌隊と三光聖歌隊が共に神様の復活と春の息吹を感じるアンセムをお捧げしました。愛餐会では皆さまからの持ち寄りの品を囲んで楽しい会話が交わされたのではないのでしょうか。今回、イースターエッグはステパノ会スタッフだけではなく、皆さまにお手伝い頂きました。卵の出来上がりです。楽しい時間はあっという間に終わり、それぞれの日々に戻って行きました。



教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前10時から1時間程ご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ礼拝様式に馴れない方は椅子にお掛けになったままで結構です。

- 礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。
- わからない点は隣の席の者か案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

- 主日礼拝
 - 午前 7:30 聖餐式
 - 午前 10:00 ステパノ会 (日曜学校) 礼拝
 - 午前 10:30 聖餐式
 - 午後 4:00 夕の礼拝
- 平日礼拝
 - 毎朝 6:30 から
 - 月、水、金は朝の礼拝、火、木、土は聖餐式